

平成27年度第1回 向日市障害者計画策定委員会 議事要点録

○日時 平成28年2月4日(木) 午後1時30分から3時30分まで

○場所 向日市役所 第1会議室

○出席者 (委員)

拾井雅人委員(委員長)、高畑龍一委員(副委員長)、宮本義信委員、川戸優委員、濱田純子委員、稲葉伊佐子委員、石井恵委員、森井詳太委員、木村一委員、植田進委員、山本壽美委員、岡庭信二委員、大村真弓委員、山本明委員、西野園枝委員、長藤登委員、桶谷美幸委員

(事務局)

障がい者支援課：日下部次長、長谷川課長、鹿島担当課長、福田主任

○議事

- (1) 第2次向日市障害者計画の進捗状況
- (2) 第3・4期向日市障がい福祉計画の進捗状況について
 - ① 障害福祉サービスについて
 - ② 地域生活支援事業について
- (3) その他

○内容

議事1 第2次向日市障害者計画の進捗状況について

(要点)

- ・第2次向日市障害者計画に掲げる各事業の取り組み状況について、「啓発・広報」「相談・情報提供」「療育・保育・教育」「雇用・就労」など主な施策の各項目の進捗状況について、事務局から説明を行った。

(主な意見)

- ・支援学校卒業後は自宅から通所する方が多く、地域で過ごされる時間は長い。地域との交流やつながりは非常に大切だと思う。
- ・自立支援協議会に関して、就労に係る課題において協議を進めていくとあるが、具体的に何か構想があるのか。平成25年度まであった雇用支援プロジェクト等の開催を考えているのか。
- ・自立支援協議会の医療的ケア委員会において、平成25年度から医療的ケアが必要な方の短期入所についての協議を継続している。行政の方向性や考え方のフィードバックがなく、委員会内でも方向性が定まらず協議がずっと続いている状況である。
- ・障がい児の発達にとっては各関係機関の連携が重要であり、以前から支援ファイルの名前があがっているが、進んでいない状況がある。支援ファイルは京都府でも作成・普及を促されており、学校・通所先・通院先・雇用先など、対象児に関する情報がスムーズに共有・引き継ぎされれると思う。ぜひ進めてほしい。

- ・本人や保護者の高齢化により、住まいへの関心は高まっている。グループホームの整備が求められるが、事業者の立場としては設置の経費や人員確保の課題が大きく、本当に整備を進めていけるのか疑問。行政の方向性や具体策はあるのか。
- ・先日、市から避難行動要支援者名簿登録の通知が届いた。数年前も同じようなものを提出した記憶があるが、なぜ今回また届いたのか。個人情報の取り扱いや引き継ぎなど、障がい者支援と防災の連携状況について聞きたい。
- ・乙訓圏域では就労系通所先がまだまだ少ない現状にあるが、希望事業所に通所できるように事業所の整備を進めてほしい。
- ・障がい者雇用の推進について、市役所においても知的障がい者・精神障がい者の雇用に積極的に進めてほしい。
- ・平成28年4月から障害者差別解消法が施行されるが、行政において何か具体的な取り組み等を考えているのか。

議題2 第3・4期向日市障がい福祉計画の進捗状況について

(要点)

- ・障害福祉サービス・地域生活支援事業の計画値や実績量、今後の方針について、事務局から説明を行った。第3期向日市障がい福祉計画は平成24年度から26年度までの3年間、第4期計画は平成27年度から3年間を計画期間としている。実績は3月実績値を記載している。
- ・障害福祉サービスの訪問系サービスについて、同行援護については概ね計画値どおり、重度訪問介護は計画値を上回り、居宅介護・行動援護は計画値を下回る実績結果となっている。日中活動系サービスについては全体的に利用増加の傾向にあるが、およそ計画に近い数値で推移している。
- ・地域生活支援事業のコミュニケーション支援事業については、概ね計画どおりの数値で推移している。移動支援事業については、利用実績は増加傾向にあるが計画値を下回っている。

(主な意見)

- ・計画値と実績量の記載はあり比較できるが、決定支給量と実績量の比較や把握はしているのか。ニーズをどのように把握しているのか。
- ・地域生活支援事業の日中一時支援事業について、計画値と実績量を比較すると、実績量が計画値を100時間ほど下回っている。放課後等デイサービスの利用者の増加の効果かと思う。重症心身障がい児については、圏域内で利用できる放課後等デイサービスは1事業所のみで、日中一時支援事業をもっと使いたいが、上限が月10時間と決められているため利用できないのが現状である。支給量の上限を広げてもらうことはできるのか。
- ・日中一時支援事業については、事業所の立場から言うと報酬単価が良くないという現状がある。支給量の上限が増えたからと言って、積極的に事業所が受け入れできるかどうかはわからない。

全体を通して

- ・来年度は次期向日市障害者計画の策定の年となる。計画の連続性も重要だとは思いますが、今の実情に見合った実現可能な計画づくりが必要と感じている。
- ・市在住の精神障害者保健福祉手帳所持者は200名を超えると聞いているが、家族会に参加しているのは8世帯のみ。3障がいのなかでも、特にコミュニケーションが難しく、事業への参

加者も少ない。どこにも相談できずに、本人・家族だけで悩んでいる方が多いのではないかと。

- ・各事業への参加について、参加したい気持ちはあっても、特に肢体不自由の障がい者など交通手段の問題で参加が難しい場合がある。そのような現状があることも理解してほしい。
- ・就労系サービスは自主通所が基本となっているのが現状だと思うが、自主通所が困難な方や有料送迎を利用する方もいる。送迎状況の実態はどうなのか。乙訓圏域内の事業所で一体的に送迎対応するなど、公平な送迎体制のあり方を検討してほしい。